

令和4年度第1回 昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会議事要旨

開催日時	令和4年7月14日（木）19:00～20:20
開催場所	アキシマエンス校舎棟2階201会議室
出席者	【委員】 出席者：10名 欠席者：2名 【事務局】 子ども家庭部長、子ども育成課長、子ども育成支援担当係長 【その他】 策定支援事業者
配布資料	・資料1 : 「昭島市子ども・若者未来対策推進計画」策定について ・資料2-1 : 子ども・若者未来対策推進計画骨子案 - 別添1 : 昭島市子ども・若者未来対策推進計画体系 - 別添2 : 昭島市子ども・若者未来対策推進計画事業体系 ・資料2-2 : 子供・若者育成支援推進大綱概要 ・資料2-3 : 子供の貧困対策に関する大綱ポイント ・資料2-4 : 東京都子供・若者計画第2期体系
傍聴者	1名
議事要旨	1. 開会 子ども家庭部長より 2. 挨拶及び新委員紹介 子ども家庭部長より 3. 議題 (1) 子ども・若者未来対策推進計画骨子案および関連施策について 資料に基づき事務局より説明した。 【委員長の進行により質疑応答】 ・調査の結果の中で、29ページに子ども・若者の居場所としてまとめられているが、アキシマエンスに新しく出来た自習室等の情報は掲載可能か。アキシマエンスの自習室は中学生が勉強している姿を見かけるので、新しいデータの話として、周知を図っても良いと思う。 →集計の状況等確認し、掲載について検討する。 ・基本方針はどのような趣旨で作ったか。 →基本方針1は課題①、若者国大綱①③、基本方針2は課題②、若者国大綱②、

	基本方針 3 は課題③、若者国大綱④⑤、基本方針 4 は課題②、貧困大綱①②③④に対応させた。基本方針 4 は基本方針 2 に被る内容となっているが、貧困対策を計画として策定する必要があることから、独立して方針を立てた。 ・自然体験活動の増加とあるが、ボーイスカウトではコロナで活動ができなかった。これまでは、高校生から大学生になるときにやめてしまう子が多かった。最近では、コロナ禍の中、保護者のアウトドアブームもあり、外で遊ばせたいといった思いもあるのか、自然体験活動は需要が増えていると感じている。 →こちらで把握しきれていない情報もある。貴重なご意見を頂戴した。 ・課題①のタイトルにある自立に向けた成長の必要性について、子どもは学校や学習指導要領を見ても、成長させられているイメージがある。「自らの成長を促進させるためには」と表現しているが、成長させられている、成長が追い付かないといった様子が自己肯定感の低さにつながっているのではないかと受け入れてくれる安心できる居場所があり、成長を実感することの方が必要と感じた。 ・役に立たないと感じるのが 6 割いることが最大の問題だと思う。自己有用感を伴う自己肯定感を高めることが大事だと思う。自己有用感の表現を加えられると良い。 →記載について検討する。 ・24 ページのグラフのひとり親世帯については、男親と女親の内訳はわかるのか。また、公的な子ども食堂はあるのか教えてほしい。 →ここでのひとり親世帯の状況は、女親、男親の合計となっているが、内訳としては男親のひとり親世帯は 5 % にも満たなかった。子ども食堂については、食堂ではない配食のみの団体も含め、民間の 6 団体が活動している。公的な団体はない。公的支援は、情報交換や情報提供の連絡会の開催や運営資金の一部を補助している。 ・塾に行けない子の学習支援はあるか。 →社会福祉協議会への委託により、市立会館を利用したボランティアによる学習支援事業の実施のほか、塾代の支援事業もある。 ・今、SOS をする力や相談する力が必要と言われている。悩みを言語化できない、言語化できても誰に相談すべきか、相談する力を育成するとともに、受け止める側の能力も育成していく必要がある。表現に入れても良いと思う。課題 1 と 3 に入れるのが良い。 →記載について検討する。
--	---

	・ここで自立と表現している自立とは何か。若者が地域社会の未来を切り拓く必要があるのか、自分の未来を切り拓くべきではないか。創造的な未来を切り拓くこともニュアンスが異なるのではないか。 →自立については、大綱にあるように社会的自立と捉えている。子ども・若者が地域社会を切り拓くという表現は修正の検討をする。 ・社会的自立を支援するとはどのようなことか。 →社会状況の変化や色々な課題がある中で困難を抱えても自ら乗り越えていけるよう子どもたちの自立を支えていきたいと考える。 ・基本理念にある「子ども・若者が健やかに成長し、」というのをもう少し整理したほうがいいと感じた。健やかに安心して希望をもって、自立を応援するという目的なら理解できる。 →表現について検討する。 ・「夢や希望をもって」や「ひとりひとり」等理念と方針でひらがなと漢字が混在しているので統一してはどうか。学校では東京都に合わせている。 →確認し修正する。 ・資料に掲載している事業は今ある事業なのか。新しい事業はあるのか。 →新しい事業は掲載していないが、必要な事業を並べている。 【その他意見・感想】 ・ボリュームが多く、読み切れない。 ・基本理念と方針が入ってこない。 ・子どもの居場所については、新しいものを作るのではなく既存の市立会館等を活用した勉強だけでない子どもの居場所、創造性を発揮できる活動場所ができるとう良い。 ・コロナになってから、地域の神社（稲荷神社）が賑わっている。子どもはこういった場所を望んでいるのだと実感した。 ・高齢者と関わることが多い中、子どもがこのような実態だと初めて知った。 ・公園等においても自由に子どもたちに遊ばせてあげられるよう大人の理解も必要である。 ・資料には多種多様な事業が挙げられているが、私たちにもできることはあると思うので積極的に応援していきたい。 ・子どもたちも考えていて、いろんなボランティアをやっている。大人も頑張る必要があると感じている。 ・25年前から日本は貧困の子どもが多いといわれていて、ここでやっと認識され
--	---

	てきたように感じる。 ・ 貧困、ヤングケアラーなど新たな問題が出てきていて、昭島市は、民間と連携して動いていることを知り、これから勉強していきたい。 ・ 高校は義務教育ではない。進学を希望する子が来ている。中学ほどバックグラウンドのバラエティーはないかもしれないが、私立から都立に希望する子が増えたり、学力はあるが発達障害を抱える子や配慮を必要とする子がいることを実感している。公金を使って施策をうつことの難しさを感じた。 ・ 警察としても小学校などに出向き、少年係と連携しながら、非行防止に向けて取り組んでいきたい。 ・ 誰にも相談できない子がいる中では、公的支援に頼っていいということを考えていかなければならない。 ・ 大学生もオンライン授業が継続しているが、久々に対面授業で会うととても喜んでいる。つながりが大事だと思った。 (事務局よりその他会議で出た主な意見の紹介) ・ データの取り扱いを検討すること。 ・ 子どもを主語とした計画を作してほしい。 ・ 豊かな子育てをしている家庭へのメッセージとなるような計画を作してほしい。 4. その他 ・ 本日の専門委員会、庁内検討委員会、子ども子育て会議の意見と合わせ検討し、7月28日(木)開催予定の青少年問題協議会に骨子案等を改めて提示する。 5. 閉会 副委員長より挨拶 以上
--	---